



通崎睦美の KYOTO アート散歩

縁日・弘法市 5
Ennichi Kobo-ichi



誰しも子供の頃、縁日へ出かけた思い出があるのではないだろうか。縁日と言えば、お面や綿菓子のある風景が思い起こされるが、そもそも縁日とは、ある神仏の降誕など、特別な「縁」がある「日」として、祭りや供養を行う日のことをいう。この日に参詣すれば、大きな功德があるとされ、多くの人がお詣りするので、その参詣人相手に多くの露店が立ち並ぶようになった。

ちなみに、毎月5日が水天宮、8日が薬師、18日が観音、25日が天満宮、28日が不動尊、の縁日とされている。京都には、全国でも代表的な2つの縁日にちなんだ市がある。毎月21日東寺で行われる「弘法市」と毎月25日に北野天満宮で行われる「天神市」だ。

私は、家からほど近いこともあり、子供の頃から、弘法市に親しみがある。これは、平安時代の僧、空海(弘法大師)の亡くなった日(845年3月21日)に期して行われているもので、室町時代、南大門の前に軒の茶屋ができたのが始まりと言われている。それが年を追うごとに広がりを見せ、江戸時代に今のような形になった。弘法市には、和洋の古着や靴など衣料品、植木、そして漬物、鯛焼き、うどんにキムチなどの食品、扱われるものを数え上げればきりがなく、1200以上の店が立ち並ぶ。老若男女がそれぞれの興味を持って楽しめる空間でもある。

中でもおもしろいのは、玉石混淆に並べられた数百円のがらくたから数百万円する骨董品。最近流行りのフリーマーケットと違うところは、それらの店主の大半が素人ではなく専門の業者さんだということ。掘り出し物のスケールも違う。銘の入った江戸時代の茶器、河合寛次郎の湯飲み、藤田嗣治のスケッチ、棟方志功の版画……。どこにも保証書はなく、頼るのは自分の目だけ。そこが楽しいところ。通い詰めれば相当に鍛えられる。ドラえもん貯金箱からスタートした子供が、数年、数十年後には相当な目利きになっているかもしれない。そう考えると、それも楽しい。



黄八丈の着用に、古い男子用の着物を仕立て直した帯。通崎所有 下駄4,515円 (伊と忠)

東寺/正式には、教王護国寺。平安建都の際、鎮護国家のため都城の南玄関、羅城門の東に建てられた。現存する木造の塔で日本一高い国宝五重塔や、日本現存最古の密教彫像の一群など、見所が多い。京都市南区。☎075-691-3325

右頁・写真右/デッドストックなど、状態のよいアンティークも扱うミニカー屋・マルチプラ。東寺の廻りに立ち寄って見ては。(手前)メルセデスL319 (BUB・ドイツ) 2,520円 (奥)コスモスポーツ (Tomica・日本) 8,820円 ●マルチプラ <http://www.multipa.biz> ☎075-342-5494 右頁・写真左/鉄板のかわりに東寺の銅鑪を熱して秘伝の薄皮を焼いたことから、弘法大師ゆかりのお菓子として、毎月20、21、22日のみ販売される。1,365円 ●笹屋伊織 ☎075-371-3333

撮影/鈴木誠一
AD/谷本天志
着つけ/山崎真紀
ヘア・メイク/谷口裕子
モデル/山根太一朗